

# SUSTAINABILITY REPORT 2026



Worldwide Partnership

**Global Marketing & Travel** | *JTB*

## CONTENTS

### JTBGMTとは

- 03 JTBGMTとは
- 04 経営理念
- 05 トップコミットメント
- 06 事業概要
- 08 価値創造ストーリー
- 09 Well-being経営の推進に向けて

### JTBGMTのサステナビリティ

- 11 [1] JTBGMTのサステナビリティ方針
- 12 我々のミッション
- 13 JTBGMTが進めるサステナビリティ6つの視点
- 14 [2] JTBGMTの取り組み
- 15 CSR活動実績
- 16 認証
- 17 サステナブルツーリズム国際認証
- 18 サステナビリティ関連データ
- 19 [3] 事業におけるサステナビリティ
- 20 サンライズツアー
- 21 スペイン語ツアー「Japón Espiritual」
- 22 訪日ソリューション

### 会社概要

- 24 会社概要
- 25 ガバナンス
- 28 社員が考える「JTBGMTらしさ」とは？

### JTBGMTサステナビリティ方針全文

- 29 JTBGMTサステナビリティ方針に関連する具体的なテーマ別サステナビリティ方針

※本レポートの対象期間は2025年4月～2026年3月です。

# JTBGMTとは

## JT B G M T と は

# グローバルな交流に 新たな価値と感動を 生み出し続けるJapan DMC



訪日インバウンドを通じ、  
持続可能で平和な社会の実現に貢献します。

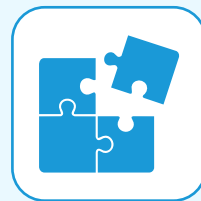
JTBグローバルマーケティング&トラベル(JTBGMT)は、訪日旅行事業のプロフェッショナル集団です。日本を愛する国内外のパートナーと共に新たな時代にふさわしい持続可能なツーリズムの発展に寄与し、お客様の期待を超える感動の物語(ストーリー)と、事業パートナーにとって価値あるソリューションを提供します。



豊富な経験と  
実績で培った専門性



全世界からお客様を  
お迎えする  
JTBネットワーク



カスタマイズされた  
最適なサービス



旅行者と地域をつなぎ、  
観光産業の発展と  
誘客をサポート

## 経営理念

私たちは、日本と世界をつなぐグローバルな交流を創造し、  
平和で心豊かな社会の実現に貢献します。

お客様に  
約束すること

私たちは、インバウンド事業のプロフェッショナルとして、  
お客様の感動と成果を追求し、社会の持続的な発展に貢献します。

行動基準

私たちは、お客様の声に真摯に向き合い、迅速かつ正確に対応します。

私たちは、100年以上にわたり培ってきた専門性と創造性をもって、お客様の期待を超える商品・サービスを提供します。

私たちは、各国の文化や慣習を尊重し、国境を超えた相互理解を促進します。

私たちは、事業パートナーと共に、地域社会の発展と日本の魅力の創出に貢献します。

私たちは、社員の多様な価値観を強みに、自由闊達な企業風土を作ります。

私たちは、持続可能性を意識し、環境に配慮した行動と選択を実践します。

私たちは、コンプライアンスに基づいた行動を徹底します。

事業ドメイン

高い専門性とホスピタリティーを備えたDMC事業

定義

地域の価値を世界に届け、的確なソリューションで人と地域をつなぐ交流を創造する

DMCのプロフェッショナル

## トップコミットメント

# 日本のサステナブルツーリズムを牽引し 持続的な成長と豊かな未来社会を描く

私たちJTBグローバルマーケティング&トラベルは、1912年に創業したJTBの最初の事業、訪日インバウンド事業を受け継ぐ会社であり、これまでもサステナビリティを軸とした運営を続けてきました。企業にとってのサステナビリティとは、単なる利益追求ではなく、環境や社会と調和しながら持続することであり、日本に古くから根付く「共助」や「利他」の精神にも繋がるものだと捉えています。私たちは時代の変化を取り込みながら成長を続ける中で、今改めてサステナビリティを経営の根幹に据え、環境や社会課題に向き合いながら、社会の公器として持続的な成長に挑戦しています。

訪日インバウンドは、輸出産業において第2位の規模に成長するなど、今後も成長が見込まれる重要な市場です。訪日客の拡大は、地域経済や小売業などを支える日本経済の大きな活力源となっています。そんな今こそ、日本人・自然・文化・歴史の魅力を世界に発信し、「日本を元気に」「世界をつなぐ」という私たちのミッションを果たすべき好機だと考えています。現在はゴールデンルートに留まらない地方分散に注力しており、「GSTC」認証を取得する企業として、世界水準のサステナブルツーリズムを牽引しています。同時に、社員の幸福、健康、成長を重視する「Well-being経営」を推進し、誰もがイキイキと働ける環境を整えることで、組織の持続可能な成長と発展を目指しています。



代表取締役社長  
執行役員

石田 恒夫

住んでよし、訪れてよし、働いてよし——。この三方よしの循環が実現したとき、地域に人が集まり、経済が潤い、さらなる循環の輪が広がっていくと考えています。サステナビリティとは、究極のWin&Winであり、誰かが損をする仕組みではありません。そして、その根底にあるのは「愛情」です。環境、社会、お客様、ビジネスパートナー、社員への愛情を持ち、より良い社会の実現へと繋げていく。私たちはこれからも同じ志を持つパートナーの皆様とともに、サステナブルツーリズムを率先垂範していきます。

## 事業概要

### 法人事業

私たちは、創業以来、多くの観光、ビジネス目的のお客様を日本にお迎えしてきました。私たちの歴史は、時代や社会環境の変化に伴って複雑化・多様化する企業・団体の課題やニーズに寄り添い、向き合い続けた軌跡でもあります。JTBGMTは、企業・団体、行政、地域の自治体や観光事業者が抱える課題に対して長年の経験で培った知見・ノウハウを活用し、課題解決に貢献します。

### 訪日ソリューション

近年、観光業は世界的な成長産業のひとつです。海外から日本へ旅行者を呼び込む「訪日インバウンド」は、国内の各地域に人流や雇用を創出し、地方創生にも寄与します。また訪日旅行者が観光する導線上に、企業・団体が自社商品・サービスのタッチポイントを設けることで、グローバルな販促・トライアル展開も可能になります。私たちは、行政、各地域自治体、観光事業者、企業・団体の課題と向き合い、さまざまな角度から訪日インバウンドに関わるソリューションを提供。商材開発やプロモーションのサポート、コンサルティングなどを行っています。



### 企業団体：MICE

従業員、取引先、株主、地域・社会などのステークホルダーとの信頼関係構築は、企業経営や団体運営において非常に重要な課題です。ステークホルダーとのエンゲージメント強化のために企業・団体が主催する報奨旅行、社員旅行、視察旅行などのビジネスツアーや、イベント、セミナー、国際会議、研修、展示会といった日本開催のMICE運営を、JTBGMTは「旅行」と「イベント」の両面から一気通貫でサポート。訪日インバウンドのリーディングDMCとして豊かな感動体験を提供し、企業・団体の課題解決をお手伝いします。

#### MEETING :

ミーティング、ビジネスイベント



#### INCENTIVE :

報奨・招待旅行



#### CONVENTION :

国際会議



#### EVENT :

国際イベント



## 事業概要

### レジャー事業

訪日観光のトレンド変化により、旅行者のニーズはかつてなく多様化しています。定番観光地を巡るツアー、伝統的な日本文化に触れる地方都市探訪、食や自然など個別のテーマに特化した体験ツアーなど。JTBグローバルマーケティング&トラベル(JTBGMT)は、世界各国の旅行者のニーズにマッチするツアー、サービス、旅行商品を提供し、ツアーの斡旋や運営を行っています。また、さまざまなトラベルエージェントへ利便性の高いオンライン予約ツールを提供。日本全国の宿泊商品・パッケージツアーを販売し、あらゆる訪日旅行者の満足度向上を図りながら、各地の自治体や観光事業者への貢献をめざしています。

#### 団体旅行



世界各国の旅行会社と連携し、訪日団体ツアーの企画・運営を行っています。目的地の提案、宿泊・移動の手配、現地での斡旋など、日本滞在中のすべてをサポート。1度限りのオリジナルの旅程からシリーズパッケージツアーまで、お客様のあらゆるご要望にお応えし、日本での特別な体験をお約束します。

#### オンライン販売



オンライントラベルエージェントを含む旅行代理店に向け、商品価格や在庫情報をXML/APIで提供する「hostConnect」、および利便性の高い専用オンライン予約システム「webConnect」を提供しています。日本全国のホテル・旅館などの宿泊商品や、JTBGMT独自の「サンライズツアー」の迅速な手配サービスシステムを提供することで、個人旅行者のさまざまなニーズに対応します。

#### サンライズツアー (SUNRISE TOURS)



サンライズツアーは、1964年に日本初の訪日外国人向けパッケージツアーとして運行を開始して以来、約60年にわたりお客様をお迎えしてきました。初訪日のお客様にも安心してご参加いただける英語全国通訳案内士がご案内するツアーから、リピーターのお客様向けのツアーまで、幅広い商品をご用意しています。また、2024年には高付加価値体験に特化した新ツアーブランド「サンライズツアープレミア」も誕生しました。

#### 個人旅行 (FIT)



少人数のグループやご家族、友人、カップルのニーズに合わせた個人旅行者向けの特別なツアーもきめ細かくサポートしています。団体ツアーでは訪れることの難しい場所で、知られざる絶景や体験を味わいたい。人生の重要な場面を感動的に演出したい。そんな特別なリクエストにも、最善のプランを実現します。

#### クルーズ (寄港地観光)



日本各地にて、クルーズ客船に対し寄港地観光(Shore excursion)、乗船・下船のサポート(Turnaround)、乗船前後のランドツアー(Pre/Post Tour)の企画、運営を行っています。私たちの強みは全国に展開するJTBネットワークと豊かな経験、そして多くの実績を通じて育んだ地方自治体や、地域のサプライヤーとの強固なパートナーシップです。魅力あふれるコンテンツを経験豊富な専門チームが、あらゆる規模のクルーズ客船に対応し日本の魅力をお伝えします。

#### BOUTIQUE JTB

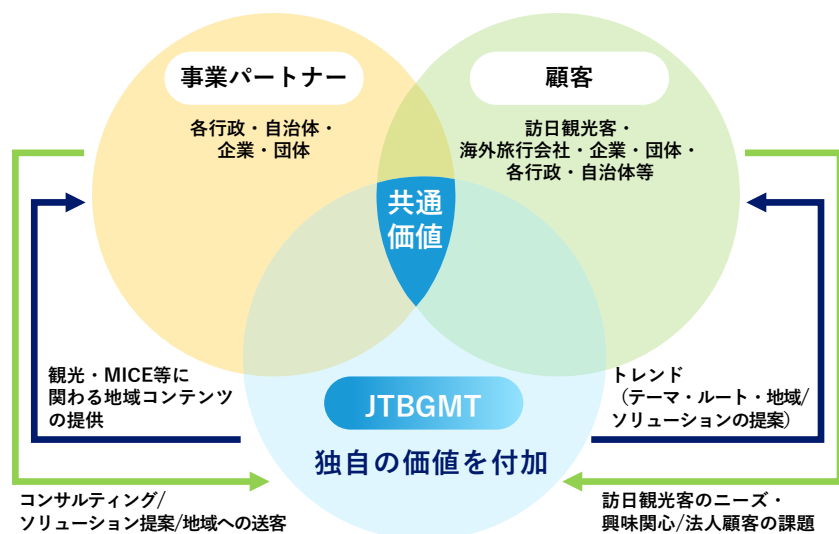


BOUTIQUE JTBは、JTBGMTの富裕層向けブランドとして、2008年に設立されました。ラグジュアリーな旅行者向けの観光事業者で構成されるコンソーシアムVIRTUOSOに加盟。専門知識と高度なスキルを有するコンサルタントチームが、どこよりも上質で安心・安全な究極のプランを追求。個々のお客様のご要望に合わせてきめ細やかにカスタマイズされた、完璧な訪日旅行をお仕立てします。

## 価値創造ストーリー

私たちは、訪日旅行事業のプロフェッショナル集団です。日本を愛する国内外のパートナーとともに新たな時代にふさわしい持続可能なツーリズムの発展に寄与し、お客様の期待を超える感動の物語と、事業パートナーにとって価値あるソリューションを提供します。

### 目指すべき持続可能な新しい観光産業（イメージ）



お客様、事業パートナーとともに  
共通の価値を創造

### JTBグループで唯一の 訪日インバウンド機能特化型会社。

1912年、広く世界に向けて訪日旅行の扉を開く役割を担い、JTBが誕生しました。JTGMTは、その歴史と使命を受け継ぐ日本のリーディングDMC\*として、訪日インバウンド関連事業を幅広く展開しています。

### 旅行者と地域をつなぎ、観光産業の発展と 訪日観光客の誘客をサポート。

JTGMTは、110年の歴史と実績により、訪日旅行を取り扱う各国の旅行会社と強固なパートナーシップを築き上げています。個人・団体旅行、海外富裕層向け、クルーズ寄港地対応、MICEなどの幅広いサービスに加え、新たなトレンドとして注目を集めるサステイナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムなど、新たな訪日体験価値の発掘や創造にも取り組んでいます。JTGMTはそれぞれの地域が持つ新しい視点から光をあて、訪日観光客の誘客をサポートします。訪日観光客と世界各国の旅行会社、各地域の事業パートナーの共業を目指し、各地域の訪日インバウンドに関連する課題解決と新しい観光産業の発展に貢献していきます。

### ステークホルダーとの関係を強化し、 企業・団体の課題解決に貢献。

JTGMTは観光目的の訪日旅行者だけではなく、企業や団体の様々なステークホルダーを招待するMICEを通じて、主催者が抱える様々な課題に長く寄り添ってきました。招待者はもちろんのこと、主催する企業・団体のご担当者にも最大限の満足と成果を実感してもらうため、あらゆるニーズにきめ細かくお応えします。訪日旅行やMICEの企画や運営をワンストップで提供し、ステークホルダーと企業・団体を繋ぐエンゲージメントの強化を目指すことで課題の解決に貢献します。

\*DMC (Destination Management Company) 専門性を持って地域にあらゆる観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う企業  
\*MICEとは、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称



## Well-being経営の推進に向けて

JTBGMTは、従業員の幸福や健康、成長を重視し、社員がイキイキと働く環境を整備することで、組織全体の持続可能な成長と発展を目指しています。具体的には、人・仕事・コミュニティ・ワークライフバランスの4つの観点で推進します。



### Well-being経営4つの観点 ～社員が健康・幸福・成長を実感できる会社へ～

#### ① 人：素晴らしい人財と働ける喜びの実現

社員一人ひとりが自己成長を追求し、互いに尊重し合える職場環境を構築することで、優秀な人財と共に働く喜びを全従業員が実感できるようにする。

##### 【具体的な取り組み内容】

GMT独自勉強会の開催、中途採用・受入出向者向け教育プログラムの拡充、資格取得・研修受講等の費用補助

#### ② 仕事：仕事を通じた喜び、やりがいのある充実した仕事の実現

BPRを通じてスマートワークを拡大し、効率的かつ創造的な業務環境を構築する。これにより、従業員が仕事を通じて喜びを感じ、お客様の感動と成果を追求することに喜びを見出せるようにする。

##### 【具体的な取り組み内容】

在宅勤務制度、テレワークベース制度の導入、社内インターンシップ、各種手当の設定

#### ③ コミュニティ：誇りを持てる組織で働ける喜び

多様な社内外活動の促進と部門を超えた人脈形成機会を創出し、公式・非公式なコミュニティを通じて多様な仲間との絆が深まる喜びを実感できる組織文化を構築する。

##### 【具体的な取り組み内容】

職場旅行、テーマ別ランチ会、ファミリーデー、ベストパートナー賞授与、地球いきいきプロジェクト

#### ④ ワークライフバランス：ワークライフバランスの実現

社員が仕事と私生活のバランスを取り、自分らしい充実したプライベートライフを送れるよう支援する。特に、仕事以外の生きがいの発見と追求を促進し、個人の成長と幸福度の向上を目指す。

##### 【具体的な取り組み内容】

休暇取得(Bleisure)、ウェルネス休暇の導入、フレックス制度の拡充、副業制度、総実労働時間の短縮、人間ドックの独自補助

### JTBグループ健康経営宣言

当社はJTBグループの一員として、従業員一人一人が身体的・精神的に健全で、イキイキとベストパフォーマンスを発揮するために、社員の健康に関する様々な課題に対し、経営戦略として改善策を強力に進めることを宣言いたします。

# JTBGMTのサステナビリティ

# 01 JTBGMTのサステナビリティ方針

## 01 | JTBGMTのサステナビリティ方針

## 我々のミッション

JTBグローバルマーケティング&トラベルは、事業を通じて、地球環境、地域社会、文化、関わる人々のサステナビリティ推進に尽力してまいります。

当社は、国連が2015年9月に採択した持続可能な開発目標（SDGs）で掲げられた「誰一人として取り残さない」の理念に賛同し、私たちが日々活動を行っている事務所や主だった観光地やイベント開催地の事業において、2017年に国連持続可能な観光国際年で提唱された下記の5つの領域に基づき、日々の私たちの暮らしに与えるプラスの影響を最大限に高めると共に、マイナスの影響を最小限に抑えることを常に心がけて事業活動を推進してまいります。

## 5つの領域



1. 包摂的・持続的な経済発展



2. 社会的な関わりの推進、雇用拡大や貧困の撲滅、人権保護



3. 資源の有効活用、環境保護や気候変動への取り組み



4. 文化的価値や遺産継承、多様性推進



5. 相互理解、アクセシビリティ、平和、安全への取り組み

## 01 | JTBGMTのサステナビリティ方針

## JTBGMTが進めるサステナビリティ6つの視点

サステナビリティ推進体制と  
法令や行動規範の遵守

- 私たちは、グローバル企業としての責任を果たすため、公正かつ透明性の高い経営を推進し、事業を行う国や地域の法令、当社が定める社内規則・規程類定等を遵守し、JTグループ行動規範に則した行動を実践すると共に国や地域の慣習・倫理観を尊重してまいります。
- 私たちは「地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する」ために、国際的な取り組みを尊重するとともに、グローバルに交流する人々の視点と価値観を大切にします。
- サステナビリティ方針およびJTグループのTheJTWayに則り、サステナビリティを経営の根幹として位置づけ、様々なステークホルダーの皆様との協働・対話を通じて推進してまいります。

お客様とのコミュニケーションを  
通じたサステナビリティの推進

- 私たちは、あらゆる場面でお客様により持続可能な選択肢を提供できるよう、お客様とのコミュニケーションやソリューションの提供において以下のことに取り組みます。
- 私たちは、商品やサービスの提供にあたり、地球環境や事業に関係する地域のサステナビリティに影響を与える情報をお客様へ正確に伝えるとともに、地域におけるサステナビリティに関する情報提供に努めます。
- また、事業推進にあたってお客様に対し、安全や衛生面の情報を提供し、サービス遂行上のリスク回避・予防につなげるだけでなく、有事の際は適切に対応します。
- さらにお客様に対しサステナビリティの重要性に関する理解を求め、事業を展開する地域の人々と、共存共栄できるよう努めます。
- 顧客満足度調査を定期的実施し、お客様からの苦情に対する適切な対応により、お客様の満足度向上とサービスの改善につなげてまいります。

地球上の自然資源と  
生物多様性の保全

- 私たちは地球上の資源に配慮して、気候変動対策・環境保護・生物多様性保全に取り組み、限りある自然資源を次世代に引き継いでまいります。
- 事業の運営にあたっては、気候変動を緩和するためのあらゆる策を講じ、紙資源やプラスチックなどの使い捨て消費財の利用削減を図ると共に、サステナブルな製品やサービスの調達を推進してまいります。
- 企業活動を通して使用される水やエネルギーの利用量を削減するとともに、より環境負荷の低いエネルギー源の利用を進めてまいります。
- リサイクルやプロセスの見直しなどを通して、廃棄物や排水・排ガスの排出を削減するとともに、有害物質の除去に努めます。
- 排出物は、事業活動を行う国や地域の基準に沿って適切に処理します。
- また生物多様性保全にむけ、動植物の違法な取引禁止や動物福祉の考え方も踏まえ、国際的、または事業活動を行う地域で保護されている動植物に影響のある事業に関わりません。

地域社会における  
サステナビリティの推進

- 私たちはサステナブルな地域社会の発展にむけ、最大限貢献してまいります。
- お客様・各事業パートナーと共に、その土地の慣習や倫理観、人々の暮らしを尊重しつつ、コミュニティの発展を支援します。
- 包括的な地域づくりに貢献できるように、年齢・ジェンダー・SOGI・国籍・思想信条・障がいの有無などに関わらず、誰もが活躍できるよう、ダイバーシティ&インクルージョンの考え方に基づく合理的配慮とエンパワメントを推進してまいります。
- また、地産地消を推奨し、地域に根差した有形無形の文化や、地域に継承される知識・技術を大切に、その価値を毀損せず、価値を高めることを目指します。
- 人々の交流を通じた地域経営や人材育成のソリューションを提供し、持続可能で豊かな地域づくりに寄与します。

サプライチェーンと連携した  
サステナブルなサービスの提供

- 私たちは事業パートナーの皆様とそこで働く人々をサステナビリティ推進における重要なパートナーであると考えています。
- お客様の利便性、快適性、娯楽性や審美性、そして経済性に配慮しながらも、事業サービスを提供する地域の暮らしや文化、自然環境や生物多様性、水やエネルギーなどの天然資源、地域社会の文化や習慣に対して当社事業が与える影響を留意し、各事業パートナーと共にサステナブルな事業を推進していきます。
- 実践に際し当社のサステナビリティ方針を各事業パートナーの皆様と共有し、その理解促進に努め、提供する事業サービスがサステナブルなサプライチェーンとなるように働きかけます。
- また事業パートナーの皆様がサステナブルな取り組みを実施している場合は、当社は進んでこれを選定し、お客様に推奨・提案します。

安心して働ける  
サステナブルな職場環境の醸成

- 当社はあらゆるステークホルダーの人権を尊重し、いかなる強制労働や児童労働にも関わらず、当グループおよび事業パートナーの従業員が安心して自分らしく働ける環境整備を目指し、労働の安全衛生環境を改善します。
- バリューチェーン全体で、商業的・性的・その他あらゆる形態の搾取やハラスメントの撲滅に向けて取り組み、特に女性や子ども、社会的少数者の権利を尊重します。
- 多様性を重んじ、公正・公平な対応を心がけ、デジタル化とテクノロジー活用を推進し、すべての従業員の健康とQOL（Quality of Life）に配慮します。
- 従業員の不満及び期待に常に耳を傾け、社内外の苦情や通報に公正に対処し、職場環境の改善に活かします。
- また、各事業パートナーへサステナビリティに関する教育・研修等の機会を積極的に整備し、主体的な取り組みを促します。

## 02 JTBGMTの取り組み

## 02 | JTBMGTの取り組み

## サステナビリティ活動実績



## 「JTBMGT地球いきいきプロジェクト」開催

「JTBMGT地球いきいきプロジェクト」は、サステナビリティへの貢献を目的としてお客様や地域の皆様とJTBMGTグループの社員が一緒になり、元氣な未来を創造していく活動です。環境保護という観点だけではなく、DEIB(Diversity, Equity, Inclusion, Belonging)の観点からもサステナビリティを推進していきたいという思いから、循環型のサステナブルな農場であるクルックフィールズ訪問後、ウミガメが産卵に訪れる千葉県釣ヶ崎海岸でのビーチクリーン活動、および難聴者のヨガ講師によるビーチヨガを体験するバスツアーを企画しました。道中では手話講座の実施、手話およびプログラム全般を学べるリーフレット作成等を行い、学びから行動につなげるプログラムを作り上げ、JTBMGT社員および一般のお客様、総勢38名が参加しました。



## 首里城の復興支援の実施

沖縄県を代表する観光地のひとつであり琉球王朝の象徴とも言える、首里城。小高い丘の上に立つ鮮やかな朱色の建築群が印象的でしたが、2019年10月31日に正殿など主要7棟が火災で焼失し、今なお復旧作業が進められています。2025年12月、JTBMGT社員のグループが首里城を訪れ、文化遺産保護と伝統技術の継承、人材育成支援のため10万円を寄付致しました。琉球王国の歴史や文化、復元工事の詳細や作業工程、内部の様子など、復興・復元が進んでいく様子を解説員の方のガイドのもと見学させていただき、文化的価値とその重要性を再認識しました。

写真：(左) 代表取締役社長 石田恒夫  
(右) 沖縄県 土木建築部 首里城復興課 企画班 仲里盛二郎様



## キャップエコキャップ回収で約 94.5kgのCO2排出削減

JTBMGTでは社内でペットボトルのキャップの回収を実施し、NPO法人エコキャップ推進協会にお送りしました。25年度の1年間で約30kg・13,950個を回収、CO2約94.5kgの発生を抑制しました。回収されたエコキャップは再生プラスチック原料として換金し、医療支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等、様々な社会貢献活動にあてられています。



## JTBMGT サステナビリティデー in 美山

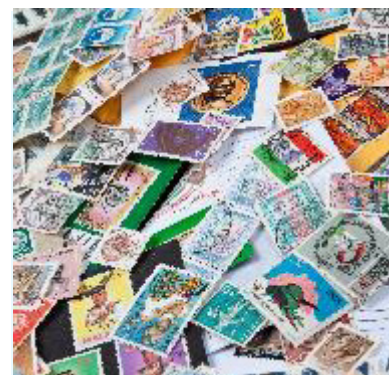
2026年1月、京都オフィスの社員主導で「JTBMGT サステナビリティデー in 美山」を開催し、37名の社員が参加しました。有名な観光都市である京都市内から車で約1時間ほどの場所に位置する美山町は、日本の山村ならではの自然豊かな景観に恵まれており、世界観光機関 (UN Tourism) の「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」にも選ばれています。まず参加者は、地元のガイドの説明を聞きながら、美しい茅葺き屋根の村を散策しました。その後、自給自足のコミュニティ「田歌舎」を訪れました。田歌舎では、そば打ちを体験し、畑で採れた新鮮な野菜を使ったランチをいただきました。最後に、京都美山観光協会主催のセミナーに参加し、美山町の取り組み、観光資源としての魅力、そして自然景観の保全活動について学びました。



## 閑上の記憶への寄付

閑上の記憶は、2011年の東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた宮城県名取市閑上地区に誕生した津波復興祈念資料館で、震災やいのちの大切さを伝える活動を行っています。JTBMGT社員のグループが2025年11月に同地を訪れ、災害の記憶と教訓の継承支援、災害に強い社会づくりへの支援として10万円を寄付致しました。実際に震災を経験された語り部の方に、震災前の閑上と被災の状況、その後の復興の経緯など、自らの体験に基づいたお話を交えながら被災地をご案内いただきました。震災の経験と教訓を風化させず、企業として災害の記憶を未来に繋ぐ社会的使命を痛感しました。

写真：(左) 取締役執行役員 阿部一晴 (2025年11月時点)  
(右) 一般社団法人 閑上の記憶 丹野祐子様



## 「日本キリスト教海外医療協力会」へ使用済み切手寄付実施

JTBMGTは、2025年度の1年間で約900gの使用済み切手を回収し、寄付を行いました。これは、タンザニアの看護学生1名分の約1年間の教科書代に相当します。

## 02 | JTBGMTの取り組み

## 認証

## 「令和2年度新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定（2021年～）



経済産業省が、多様な人財の能力を最大限に発揮し、ダイバーシティ経営を経営成果に結びつけている企業を選ぶ「令和2年度新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定されました。2015年から着実に積み重ねてきたJTBGMTのダイバーシティ推進の取り組みがこのたびの選定につながりました。令和2年度の選定企業は16社（プライム2社、表彰対象企業14社）。サービス業の領域では唯一当社だけが選定されました。

## 「次世代育成支援対策推進法」に基づき「くるみん」を取得（2019年～）



JTBGMTは2019年8月に厚生労働大臣より、「次世代育成支援対策推進法」に基づく子育てサポート企業として「くるみん」を取得しました。（2019年8月2日付）これは当社が2017年4月に策定・届出を行った、「次世代育成支援対策推進法」に基づく2ヶ年の行動計画に対して、定めた目標を達成し、一定の要件を満たしたことで、厚生労働大臣より子育てサポート企業として認定されたものです。

今後も、仕事と子育ての両立支援に取り組み、多様な人財が能力を最大限に発揮し続けることができる環境づくりを推進していきます。

## 「SAFETRAVELSSTAMP」を取得（2021年～）



JTBGMTでは、「旅行業務における新型コロナウイルス感染拡大予防対応ガイドライン」を設定しています。2021年にこのガイドラインを基に、新型コロナウイルス感染拡大防止と、お客様への安心感の訴求を目的に世界旅行ツーリズム協会（World Travel and Tourism Council、以下WTTC）が発行する「Safe Travels Stamp」を取得しました。Safe Travels Stampは、COVID-19や同様の感染症集団発生に対処するためにWTTCの定める安全基準と感染防止策（Safe Travel Protocols）に準拠したツーリズム関連企業のみが取得を認められるものです。

## 「女性活躍推進法」に基づき「えるぼし」2つ星を取得（2017年～）



当社は2017年に厚生労働大臣より「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」2つ星を取得し、毎年更新を実施しております。今後も女性活躍推進環境整備に力を入れて参ります。

## 「健康経営優良法人」に認定



2021年、JTBGMTは経済産業省より健康経営優良法人企業として認定されました。健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標としています。2023年以降は、JTBグループ（当社を含むJTB国内グループ企業18社が対象）として認定されています。

## ツアーオペレーター品質認証制度



ツアーオペレーター品質認証制度は、事業者（ツアーオペレーター）の品質を保証することにより、訪日旅行の品質向上と、訪日旅行者が安全、安心で良質な旅行を楽しんで頂くことを目的として作られ国からも推奨された品質認証制度です。ツアーオペレーター業界の自主規制を通じて、旅行手配、旅程管理等の業務はもとより、事業者自身の「企業の法令遵守」、「品質管理・サービス水準」、「CSR」、「サステナブルツーリズム」の4つの側面から評価し、所定の基準を満たした優れた事業者を認証しようとするもので、JTBGMTは2013年度の本制度運用開始時から途切れることなく更新しています。

## 02 | JTBGMTの取り組み

## サステナブルツーリズム国際認証

## 国際標準「GSTC」ツアーオペレーター認証を取得



JTBグローバルマーケティング&トラベルは、持続可能な観光のための国際基準を策定・管理するグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（TheGlobalSustainableTourismCouncil®、以下「GSTC」）が認定した第三者国際認証機関の1つであるビューローベリタス社（BureauVeritas、本社：フランス）の審査により、GSTCツアーオペレーター認証を2025年3月31日に取得しました。

GSTCは国連機関が主導して2007年に設立され、国や地方政府、観光事業者などの会員を有する国際的な非営利組織です。GSTCの基準は、①持続可能な経営、②社会経済への影響、③文化への影響、④環境への影響、の4つの柱で構成されています。JTBGMTが持続可能な観光を実現するために策定しているサステナビリティ方針や、事業パートナーの皆様と取り組んできた環境・地域・文化に配慮したツアー造成、また訪日外国人向けパッケージツアー「サンライズツアー」でのカーボンオフセットツアーの設定やお客様に向けたレスポンシブルトラベラー（環境や地域社会に配慮しながら旅行する責任ある旅行者）説明動画の公開等が評価され、認証取得に至りました。

JTBGMTは、GSTC認証取得を機に社員全員が持続可能な観光の重要性を再認識し、事業パートナーの皆様と共に、サステナブルツーリズムを牽引し続ける企業として貢献してまいります。

※2026年3月時点で、26名の社員がGSTC公認試験に合格し「GSTC Professional Certificate in Sustainable Tourism」を取得しています。



## 02 | JTBGMTの取り組み

## サステナビリティ関連データ

| 項目                                | 単位  | 実績     |                    | 目標      |         |         |
|-----------------------------------|---|--------|--------------------|---------|---------|---------|
|                                   |   | 2025年度 | 2026年度             | 2027年度  | 2028年度  |         |
| サステナビリティ推進体制と<br>法令や行動規範の遵守       | JTB GROUP CODE試験の合格率（JTB Wayの理解等）           | %      | 93.7               | 100     | 100     | 100     |
|                                   | JTBユニバーシティ主催「階層別新任者向け研修」の受講率                | %      | 100                | 100     | 100     | 100     |
|                                   | サステナビリティに関するeラーニングの受講率                      | %      | 95.6               | 100     | 100     | 100     |
|                                   | サステナビリティ意識調査「サステナビリティをベースとしたブランド価値向上」       | %      | 84.9               | 86      | 88      | 90      |
|                                   | サステナビリティ意識調査「サステナビリティの目標達成に向けた活動実感」         | %      | 84.1               | 85      | 85.5    | 86      |
| お客様とのコミュニケーションを通じた<br>サステナビリティの推進 | サステナブルなツアー・コンテンツ作成数(オーバーツーリズム回避、文化継承、環境保全等) | 本/個    | 275                | 260     | 285     | 310     |
| 地球上の自然資源と生物多様性の保全                 | 自社が排出するCO2排出量（スコープ1，2）：2030年度までに実質ゼロ        | t-CO2  | 集計中<br>247(2024年度) | 165     | 124     | 83      |
|                                   | CO2ゼロMICE開催                                 | 回      | 2                  | 3       | 4       | 6       |
| 地域社会におけるサステナビリティの推進               | 東京・大阪・京都以外の宿泊サービス提供率                        | %      | 51.6               | 55      | 60      | 65      |
| サプライチェーンと連携した<br>サステナブルなサービスの提供   | GSTCスタンダードまたは認定基準による認証ホテルの手配泊数              | 泊      | 277,483            | 300,000 | 350,000 | 400,000 |
|                                   | 事業パートナー等への講演数（自社のサステナビリティ方針の理解促進）           | 回      | 4                  | 6       | 8       | 10      |
|                                   | サステナブルMICE提案数                               | 件      | (2026年度より<br>カウント) | 15      | 17      | 20      |
| 安心して働けるサステナブルな職場環境の醸成             | 法定障害者雇用率                                    | %      | 2.86               | 2.7     | 2.75    | 3       |
|                                   | 女性管理職比率                                     | %      | 45.9               | 46      | 47      | 48      |
|                                   | 女性役員比率(常勤役員)                                | %      | 25                 | 25      | 25      | 25      |
|                                   | 育児休業取得率（男性/女性）                              | %      | 100/100            | 100/100 | 100/100 | 100/100 |
|                                   | 男女賃金差異（全労働者）                                | %      | 77                 | 77.5    | 77.9    | 78.2    |
|                                   | 一人あたりの年間総労働時間                               | 時間     | 1,975              | 1,800   | 1,800   | 1,800   |
|                                   | 離職率   | %      | 2.71               | 3       | 3       | 3       |
|                                   | テレワーク勤務率（月1回以上在宅勤務をしている人の割合）                | %      | 19.7               | 20      | 20      | 20      |
|                                   | 社員意識調査（エンゲージメント設問）                          | %      | 69.8               | 72      | 74      | 76      |
|                                   | 社員意識調査（ビジョン設問）                              | %      | 87.9               | 88      | 88.5    | 89      |
|                                   | 社員意識調査（ダイバーシティ設問）                           | %      | 87.5               | 88      | 88.5    | 89      |
|                                   | マネジメント意識調査「変革に向けたマネジメントカテゴリ」（上司部下GAP）       | 点      | 0.21               | 0.2     | 0.16    | 0.12    |
|                                   | メンタルヘルス研修受講率（対象者指定）                         | %      | 85.7               | 100     | 100     | 100     |
|                                   | ストレスチェック受講率                                 | %      | 100                | 100     | 100     | 100     |
| 社外ステークホルダーへの講演・研修開催数（サステナビリティ啓蒙）  | 回   | 1      | 1                  | 2       | 3       |         |

03

# 事業におけるサステナビリティ

## 03 | 事業におけるサステナビリティ

## サンライズツアー

## 取り組み詳細

JTBグローバルマーケティング&トラベルが企画運営する「サンライズツアー」は、60年以上の歴史を誇る訪日外国人向けパッケージツアーです。2022年度に発足したサステナビリティ推進委員会では、同ツアーの企画・販促・オペレーションに関わる社員がメンバーとして参画。月に1回の定例会議を行い、カーボンオフセットやペーパーレス化に向けた活動などを通じて、ツアー全体におけるサステナビリティへの取り組みを推進しています。



エクスペリエンスサプライ部  
エクスペリエンスデザイン課  
伊藤 寿英



エクスペリエンスサプライ部  
レベニュー&オペレーション課  
長岡 佳奈



エクスペリエンスサプライ部  
エクスペリエンスデザイン課  
宮嶋 典子

## カーボンオフセットの取り組みなどを推進

長岡：私はツアーのオペレーションを担う立場からサステナビリティ推進委員会の活動に参加しています。定例業務として行うものの一つがカーボンオフセットです。まずは一部のツアーで試験的に導入した後、2024年1月からはバスで移動する全てのサンライズツアーで採用しています。「ガイド説明会」では毎年更新するガイドマニュアルの説明会を通じて、来年度のツアーの紹介やサステナブルに関連する取り組みをガイドのみならず周知しています。

宮嶋：私は京都オフィスで西日本のツアー造成を担当していますが、サステナビリティ推進委員会を通じて東京オフィスと密に情報共有し、各地の事例を参考にしながら「ゴミを持ち帰る」「多様性を持たせる」などの視点を企画に反映しています。また、レスポンスフルトラベラーの取り組みの一環として、バスの車中でDVDを流して旅行者に対して地域への関心を持ってもらうなど、責任を持った行動を促す啓蒙活動にも取り組んでいます。

バスツアーを刷新し、CO<sub>2</sub>削減と満足度向上を両立

伊藤：サステナビリティへの取り組み事例の一つが、私が企画担当した「日光日帰りウォーキングツアー」です。従来の「日光バスツアー」は、道路渋滞等の問題から行程の大半がバス移動に割かれ、観光を楽しむ時間が十分確保できないという課題を抱えていました。そこでツアーの内容を抜本的に見直し、電車・路線バスを使ったウォーキングツアーに刷新。地元で古い言い伝えが残る地蔵の見学や、日光の美味しい水が飲める給水スポットへの立ち寄りなど、ウォーキングならではの地域に根付いた体験を追加することで、CO<sub>2</sub>削減に貢献しながら満足度向上にもつながるツアーを実現しました。また、飲食店と交渉してインドタリー食を導入するなど、多様性にも配慮した内容となっています。この企画に手ごたえを感じた現在は、北海道でも「余市・小樽日帰りウォーキングツアー」を新たに造成しました。



## 日本のサステナブルツーリズムを牽引する存在へ

宮嶋：私が造成した「武士の誇りと伝統が息づく街・岩国一日ツアー」は、地域活性化の観点から生まれた事例の一つです。広島ではオーバーツーリズムが課題となる一方、広島から約1時間の山口県岩国市では観光客の減少が課題でした。そこで山口県とタイアップし、錦帯橋の見学に加えて岩国寿司体験、酒蔵見学・試飲、武家文化を体感できる博物館訪問など、ストーリー性のあるツアーを造成。観光の分散化と地域活性化に貢献できるツアーとして、発売間もない現時点でも予約・催行実績を重ねており、地域に眠る観光資源の可能性を改めて実感しています。

長岡：今後はJTBグループ内にとどまらず、日本の観光業界におけるサステナブルツーリズムを牽引する存在を目指して頑張っていきたいです。

## 03 | 事業におけるサステナビリティ

## スペイン語ツアー「Japón Espiritual」

## 取り組み詳細

イベロアメリカ営業部では、2019年からスペイン語の乗り合いバスツアー「Japón Espiritual」を催行しています。東京・京都などのゴールデンルートを訪ねつつ、伊勢鳥羽や奈良、和歌山などに立ち寄る行程を企画。2022年7月には、農林水産省の農泊推進事業の一環で訪日ソリューション営業部とともに三重県鳥羽市の相差エリアを視察。翌2023年から同地域の活性化を図るため、新たに「海女小屋体験」をツアーに組み込みました。



イベロアメリカ営業部  
イベロアメリカ二課  
玉田 美幸

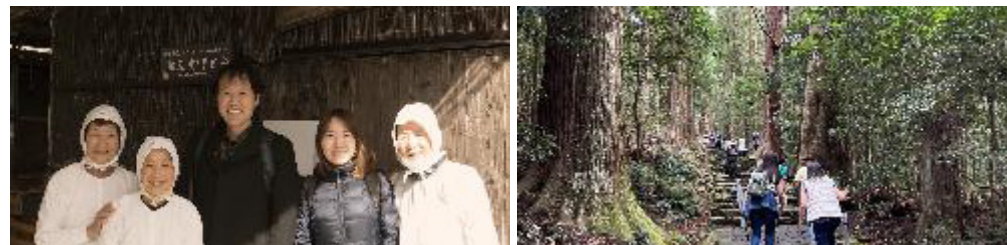
## 海女との交流の場を設け、伝統漁法の継承に貢献

現在、三重県鳥羽市の相差地域では、海女の担い手不足が深刻化しています。当社は海女の伝統漁法を「日本が守るべき大切な文化」と捉え、その想いを継ぐ重要性から「Japón Espiritual」に組み込むことを決めました。海女小屋体験では、通訳ガイドの支援のもと、ツアーの参加者が現役の海女さんと直接会話できる時間を提供しています。宿泊先では地産地消を意識した料理を提供し、夕食の献立表に鳥羽周辺の地図と食材の産地イラストを掲載することで、地域の漁業に思いを馳せていただく機会をお作りしています。さらに、世界遺産「熊野古道」でのトレッキングや「伊勢志摩国立公園」「吉野熊野国立公園」の訪問などを通じて、日本の美しい景観や豊かな生態系に触れる機会も設けています。

## 「本物の体験」を求めて、参加者が2倍に増加

海女小屋では、海産物が苦手な外国人の方もいらっしゃることから、基本は海鮮を提供しつつ、海女小屋のご協力で代わりに肉を焼いてもらうなど、多様性の観点を踏まえて参加者のニーズに合わせた柔軟な対応をお願いするようにしています。また、平日や閑散期にも出発日を設けることで特定時期に利用が集中することを避け、通年での平準化を図ることでオーバーツーリズム解消にも寄与できるように意識しています。

募集人数を売り切るケースが多く、参加者は2023年と比較して2倍まで増加しました。70歳以上の海女さんが現役で海に潜ることに驚かれることが多く、海女さんとの交流が「本物の体験」として心に深く残ったというお客様からの声を数多くお寄せいただいています。



## 今後も伝統文化・自然環境の保全に繋がるツアーを

受け入れ先のホテルではアメニティの包装をプラスチックから紙へ切り替え、小麦の茎を再利用した歯ブラシを採用。伊勢茶などの地元食材を積極的に活用し、朝食ビュッフェではアレルギー確認リストもご用意いただいています。一方の海女小屋では、海洋資源保護の観点から年1~2回、稚貝の放流が行われていました。こうしたサステナブルな事業者をツアーに組み込むことは、地域や自然環境に対する影響が非常に大きいと感じています。今後も取り組みを共にする事業者を広げ、お客様が多彩な日本の魅力に触れつつ、伝統文化・自然環境の保全にもつながるツアーを造成していきたいです。さらに、伝統の祭りなど地域ならではの体験ができるコンテンツや、地方周遊コースの造成により、リピーターや長期滞在の増加を図ることで地域活性に貢献していければと思います。

## 03 | 事業におけるサステナビリティ

## 訪日ソリューション

## 取り組み詳細

地域自治体DMO等のインバウンド誘客の課題解決などに取り組む訪日ソリューション営業部ソリューション営業二課では、滋賀県湖東エリアにてインバウンド向けの「酒蔵ツーリズム」コンテンツを造成。酒蔵に加え、発酵文化や良質な水、歴史的資源を活かした8つのコンテンツを造成しました。地域の伝統や文化を丁寧にストーリー化し、地産地消や伝統継承を軸に据えることで地域の活性化に繋がっています。



訪日ソリューション営業部  
訪日ソリューション営業二課  
劉 海涛



訪日ソリューション営業部  
訪日ソリューション営業二課  
向井 望

## 地域の伝統文化に触れる多彩なコンテンツを企画

**向井**：琵琶湖ホテル様と一緒に、琵琶湖周辺で利用できるインバウンド向けの「酒蔵ツーリズム」のコンテンツを造成しました。こちらは日本産酒類のブランディングやインバウンドの需要創出、新市場の開拓などを後押しする取り組みです。2025年度は湖東エリアで8コンテンツを造成し、地域の事業者と内容を磨き上げたうえで販売できる形にタリフ化したほか、販促ツールも整備しました。

**劉**：私は日本酒に絡んだコンテンツを提供する事業者との折衝を主に担当しました。「百済寺」で呈茶菓や庭園鑑賞を楽しむ体験、「太郎坊宮」で御神酒儀式に参加できる企画、甲賀市の老舗「瀬古酒造」での忍者にちなんだ酒やウイスキーの紹介と見学後のテイस्टングなど、どれもここでしか得られない体験価値の高いメニューとなりました。

## サステナブルな体験を分かりやすくストーリー化

**劉**：コンテンツ造成では、環境への配慮だけでなく、地産地消の推進、伝統文化資源の継承、地域ならではの文化・観光資源の活用を重視しました。酒蔵や観光施設などの事業者によって抱える課題やサステナビリティに対する考え方は異なります。そこで共通の方向性を見出すため、丁寧なヒアリングを心掛けるようにしました。

**向井**：インバウンドに慣れていない事業者の場合、海外で求められる情報が分からないケースが多いです。そこで、送客に繋げるためには、海外の旅行会社に提案するためのビジュアルや訴求力のある画像が重要である点などをお伝えするようにしました。また、単に画像を見せるだけでなく、その土地の背景や文化に込められた思想、持続可能な営みの意味を分かりやすいストーリーに落とし込み、訴求ポイントを整理することにも力を入れました。



## 酒蔵をフックにしながら地域周遊に繋げていく

**向井**：訪日外国人にとって「日本酒」は引きの強いコンテンツですが、どうしても酒蔵単体に注目が集まりがちです。日本酒をフックに地域周遊を促す発想が大切であり、今後も発酵文化や良質な水などへストーリーを広げ、エリア全体の活性化につなげたいです。また、宗教上飲酒できない方などにも配慮し、発酵体験、味噌づくり、酒器などを組み合わせた多様なコンテンツの造成を続けていければと思います。また、23年度は湖西エリア、24年度は湖南エリアのコンテンツを造成しましたので、最終的には湖北エリアも造成し、琵琶湖一周開発できればと考えております。

**劉**：今後の課題としては「二次交通」が挙げられます。また、小規模事業者の人材不足やデジタル化への対応も挙げられます。課題に対するソリューションも検討しながら、今後も地域産業の持続性強化と文化の継承に貢献していきたいです。

# 会社概要

## 会社概要

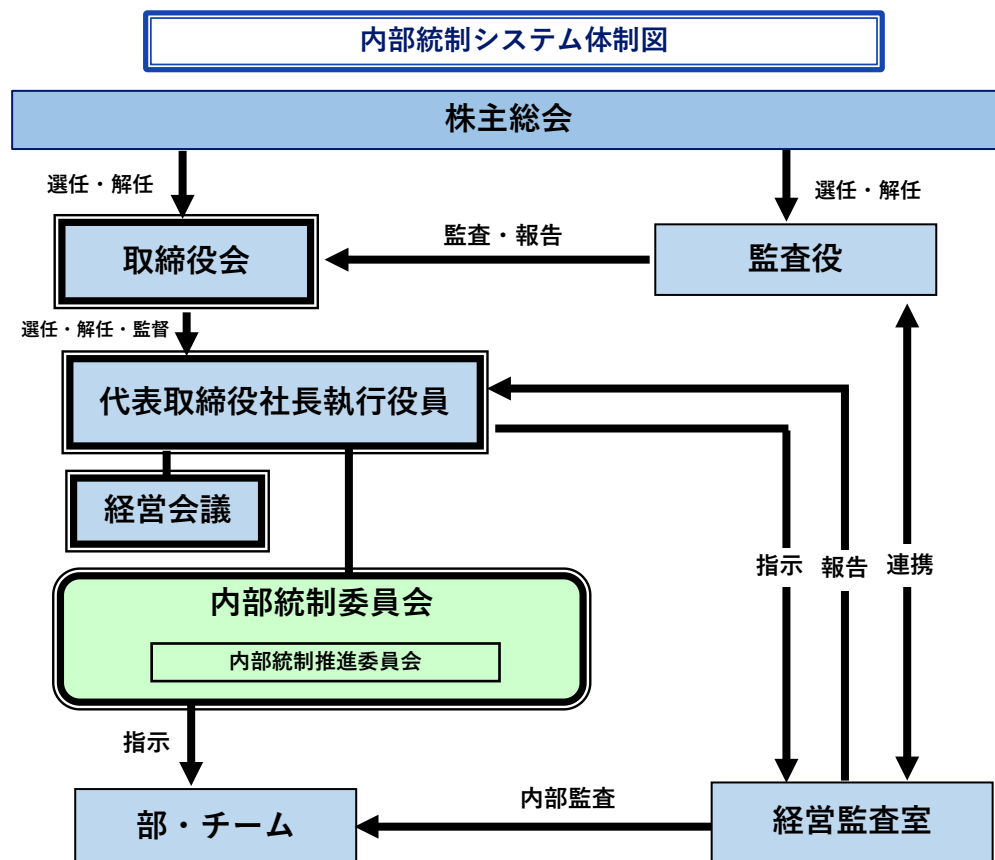
|       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 正式名称  | 株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル                          |       |  |
| 本社所在地 | 〒140-8604<br>東京都品川区東品川2-3-14<br>東京フロントテラス4・5・6・7階 |       |  |
| 営業所   | 東京・京都   |       |  |
| 設立日   | 2004年10月12日                                       |       |  |
| 登録番号  | 観光庁長官登録旅行業 第1723号                                 |       |  |
| 資本金   | 1億円   |       |  |
| 取扱額   | 586億円（2025年度）                                     |       |  |
| 株主    | 株式会社JTB（100%）                                     |       |  |
| 役員    | 代表取締役社長執行役員                                       | 石田 恒夫 |  |
|       | 取締役常務執行役員   | 福田 恭久 |  |
|       | 取締役執行役員   | 坂野 晴彦 |  |
|       | 執行役員  | 西内 史  |  |
|       | 取締役（非常勤）  | 寺本 巧  |  |
|       | 取締役（非常勤）  | 谷原 実  |  |
|       | 監査役（非常勤）  | 大澤 等  |  |



## ガバナンス

### 内部統制システム

当社経営理念である「私たちは、日本と世界をつなぐグローバルな交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献します。」の実現に向け、業務の適正を確保するための当社の内部統制システムの基準、規程等を定めています。また、当社における内部統制システム全体を統括し、業務の適正性、有効性及び効率性を確保し、企業価値の維持・向上を図ることを目的として社長執行役員が委員長を務める「内部統制委員会」を設置しています。



### リスクマネジメントと事業継続計画

当社が事業を推進していく上で事業に影響を及ぼす、または、その恐れがある様々な事象に、迅速かつ的確に対処するため、リスクマネジメントの基本的指針・枠組み、リスク対策のフロー等を定めています。

予測困難な緊急事態が発生し、事業活動が停滞すると、その後の組織を維持していくことは極めて困難となります。さまざまな損失等を極小化し迅速に通常業務へ復旧するため、危機管理体制やBCP（事業継続計画）の体制を整備しています。また、日本国内で震度6弱以上の地震が発生した場合は地震対策本部を設置して対応することとし、株式会社JTBの対策本部と連携してまいります。

### BCPの基本方針

当社は初動対応を迅速に行い、優先業務を遂行することで、可能な限り当社の業務の早期再開を図り、「お客様」「従業員」「事業パートナー」及び社会に対する責務を果たすことを目指します。

1. お客様、全ての役員及び従業員の安否確認
2. 当社グループ、事業パートナー等の被害状況の把握
3. 被害を受けた本社、事業拠点やシステム等の復旧対応

また、首都圏直下型地震や大規模災害により東京オフィスが被災した場合は、京都オフィスにバックアップ対策本部を設置します。

## ガバナンス

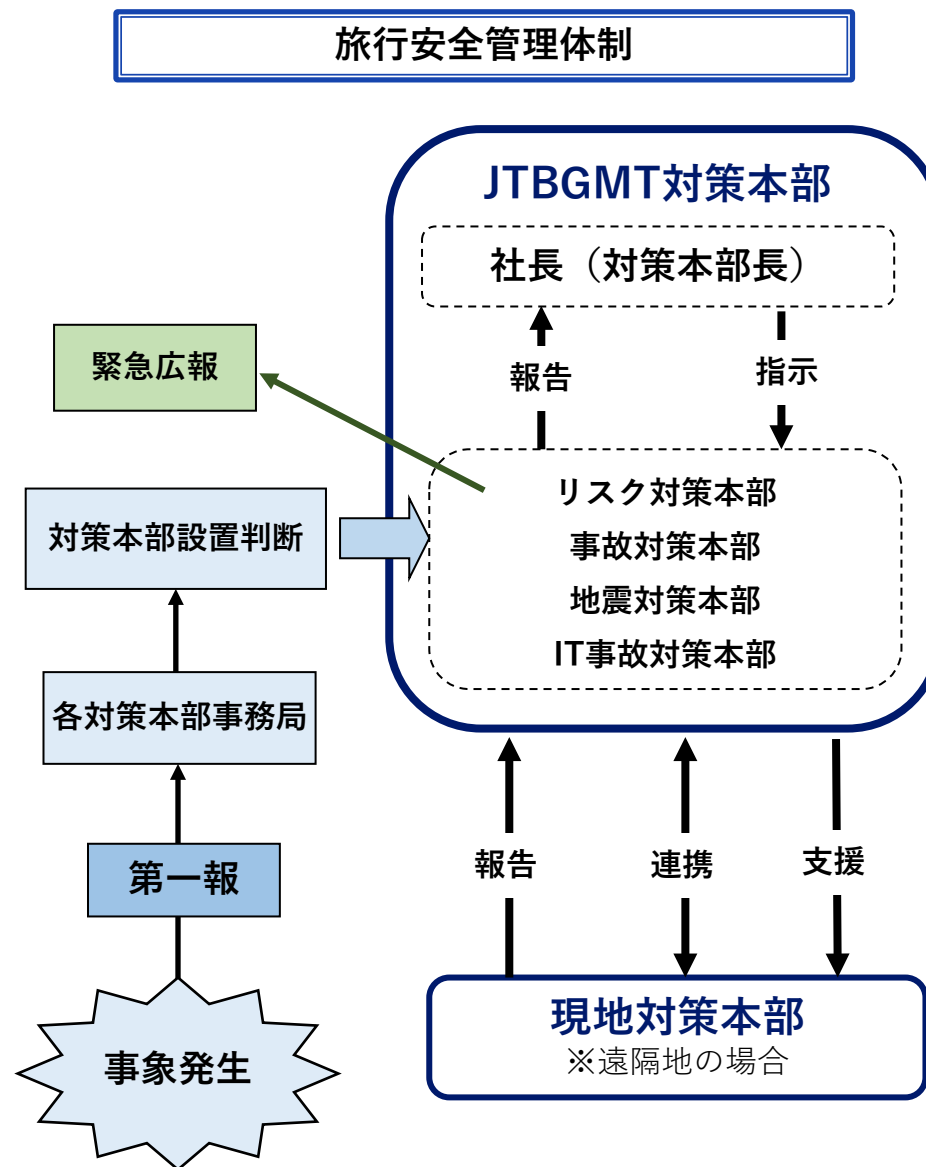
### 旅行安全

当社は、安心安全な旅の提供が、交流文化事業の担い手としての責任であることを認識し、旅行安全に関する基本方針を定め、その実現のために具体的な実施事項をとりまとめています。

安心安全な旅の提供は、JTBグループブランドの価値向上につながり、安心安全という付加価値のある商品は、お客様からお選びいただける競争力の高いものとなります。安心安全な旅の提供を通して社会に貢献すること、それがJTBグループに対する社会の期待であり、それに応えていくことがJTBグループの使命と捉え、取り組んでまいります。

#### JTBGMTにおける旅行安全に関する基本方針

1. JTBGMTは、旅行の安全確保が事業の最優先課題であると認識し、取り組んでいきます。
2. 「旅行安全マネジメント規程」、「旅行安全マネジメント指針」を定め、役員および従業員がこれを遵守します。
3. 「旅行安全マネジメント指針」について、定期的実施状況およびその有効性について評価し、不断の見直しを実施します。

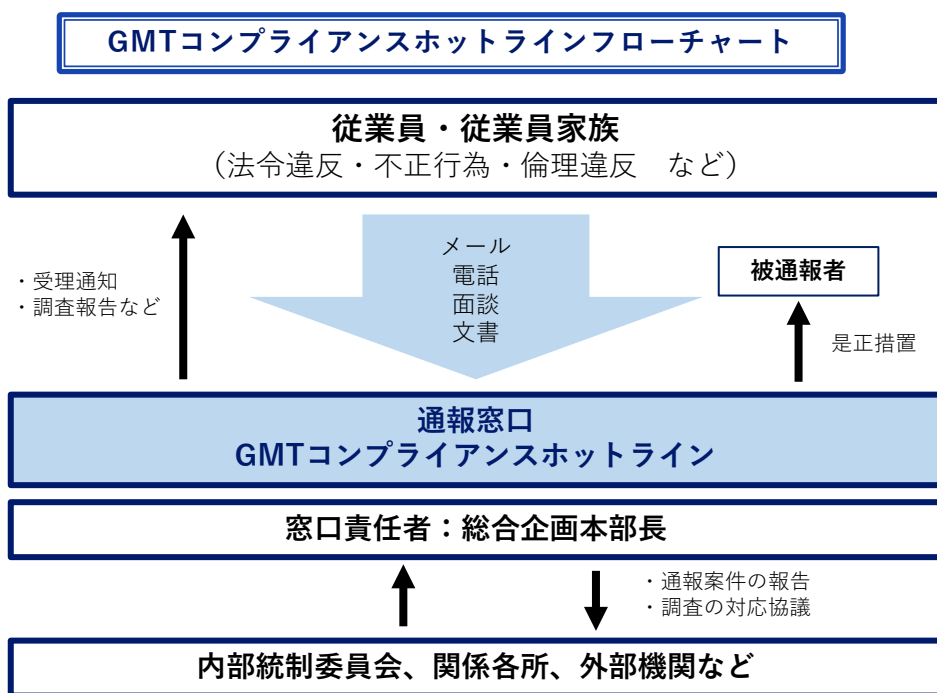


## ガバナンス

### GMTコンプライアンスホットライン（内部通報制度）

当社では「公益通報者保護法」に基づき、社員が安心して相談できる窓口として、「GMTコンプライアンスホットライン」を設けています。以下のような「会社のルールや社会のルールに反する行為」について相談でき、通報者の氏名や所属などの個人情報 は 厳重に管理し、また通報者が会社から不利益な扱いを受けることもありません。

- ・ 法律違反（旅行業法、労働基準法、個人情報保護法など）
- ・ 不正な経理や横領行為
- ・ セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメント行為
- ・ 安全管理上の問題
- ・ 情報漏洩につながるような行為
- ・ その他、会社の倫理に反すると思われる行為



### 社員向け研修の実施

当社では、社員のコンプライアンスおよびサステナビリティへの理解浸透に向けて必要な研修やアンケートを実施しています。

#### 2025年度社員向け研修・アンケート一覧

- ・ サステナブルツールズ研修（部署長必須）
- ・ JTグループのサステナビリティ（全社員向け動画研修）
- ・ GSTCサステナブルツールズ研修プログラム(STTP)（選抜制）
- ・ 人権デューデリジェンス（アンケート）
- ・ ハラスメント研修
- ・ メンタルヘルス研修（新任管理職、新任リーダー向け）
- ・ 社員意識調査（マネジメント・サステナブル意識含む）
- ・ 行動規範教育／遵守宣言
- ・ コンプライアンスデー（アンケート）
- ・ 個人情報保護教育&理解度チェック
- ・ ITセキュリティ教育 動画配信と確認テスト（2回実施）
- ・ BEC詐欺対策勉強会
- ・ DXリテラシー（アンケート）
- ・ 損害保険代理店の自己点検（有資格者必須）
- ・ 仕事と介護の両立支援セミナー「知っておきたい仕事と介護の両立知識」

また、この他にも、全従業員を対象としたITセキュリティ、内部統制・法務、財務に関する小テストを毎月実施しており、全問正解するまで繰り返し受験することを義務付けています。

## 社員が考える「JTBGMTらしさ」とは？

JTBグローバルマーケティング&トラベルには、社員の一体感醸成、エンゲージメント向上、サステナビリティの取り組み等を牽引するための「ブランド向上委員会」という全社横断型の組織があります。

2025年度、ブランド向上委員を務めてきた社員が考える「JTBGMTらしさ」とは？



# JTBGMTサステナビリティ方針

サステナビリティ方針に関連する  
具体的なテーマ別サステナビリティ方針

# JTBGMTサステナビリティ方針

## JTBグローバルマーケティング&トラベル

### サステナビリティ方針に関連する具体的なテーマ別サステナビリティ方針

#### 1)環境保全に関するサステナビリティ方針

我々は、地球上の資源に配慮して、気候変動対策、環境保全に向け以下の通り取り組みます。

##### (1)使い捨て・消耗品の削減

###### ①Reduce(リデュース)=ごみを減らす(発生抑制)

- マイバッグ（エコバッグ）を利用し、レジ袋のごみを減らす。
- マイボトルやマグカップ等を利用し、ペットボトルのごみを減らす。
- プラスチックや発泡スチロール製品の代わりに、セラミックや再利用可能な食器や、生分解性、植物由来プラスチックを使用する。（缶、ガラス瓶、紙・木・竹製ストローの利用等）
- 不必要な包装を断り、包装紙を減らす。
- 食べ残しをしない。（食品ロスの削減）
- 無駄な紙の印刷を減らす。（紙パンフの削減、提供資料のデータ化、会議資料はPC閲覧、社内用印刷は可能な限り両面、縮小、白黒印刷等）
- ペーパータオルやトイレットペーパー等、無駄に使わない。

###### ②Reuse(リユース)=繰り返し使う(再利用・再使用)

- リターナブル容器に入った製品を選び、使い終わった時にはリユース回収に出す。（トナー等）
- 不用品の再使用に努める。（フリーマーケット等への参加や文房具の再利用：ボールペン、蛍光ペン、シャープペン、消しゴム、付箋、定規、はさみ、カッター、のり、修正液、ホッチキス、クリップ、ダブルクリップ、クリアファイル、電卓等）

###### ③Recycle(リサイクル)=ごみを再び資源にする(再資源化・再生産)

- ゴみの分別は指示通りに行い、資源ごみの分別も徹底する。  
（ペットボトル、エコキャップ（寄付）、瓶、缶、段ボール、新聞・雑誌類、電池等）
- 環境保全に配慮したリサイクル製品やエコマーク認定商品を積極的に利用する。

##### (2)エネルギーの利用量削減

- 出社時は必要なブロックのみ点灯し、ブロックの最終退出者は退社時必ず該当ブロックの消灯を行う。
- 利用していない会議室の電気やプロジェクター、ディスプレイの電源等を必ず消す。
- 空調（冷房、暖房）の温度は適切に設定する。（環境省推奨適正室温夏季28°C、冬季20°C）
- 利用時間外はPCのディスプレイの電源を消す。
- 可能な限り、電気機器を省エネモードに設定する。
- エネルギー効率の良いLEDライトを利用する。

##### (3)水の利用量削減

- 水道の蛇口は、流量制限器付きの節水型蛇口が設置されている。
- 節水型トイレを利用し、最低限の水量が設定されている。
- トイレ、手洗い、流し台等での節水を心がける。

#### (4)従業員移動に関する環境負荷の低減

- 可能な限り移動を減らす。（テレワーク、出張の代わりにオンライン会議等）
- 可能な限りサステナブルな移動手段を利用する。（公共交通手段、飛行機ではなく新幹線等）
- 出張の手段・距離からCO2排出量算出、記録し社員に共有の上、削減を目指す。
- 上記CO2排出量をカーボンオフセットで相殺することを検討、実施。
- 自転車通勤補助を提供する。

#### 2)購買に関するサステナビリティ方針

我々は、価格、品質、入手可能性を考慮に入れ、以下のように、可能な限りよりサステナブルな製品とサービスを優先に購入いたします。

- 以下のような持続可能性が証明された製品を優先的に購入する。  
エコマーク、オーガニック、フェアトレード、資源保護等に関する認証がある商品（FSC、MSC認証等）、寄付付きの商品、地産地消の商品、被災地産品等
- 可能であれば、地元の事業者が地元で生産した製品を購入する。
- プラスチックや発泡スチロール製品の代わりに、セラミックや再利用可能な食器や、生分解性、植物由来プラスチックを使用する。（缶、ガラス瓶、紙・木・竹製ストローの利用等）
- 不必要な包装を断り、包装紙を減らす。
- 梱包材や配達時のCO2削減のため、可能な限りまとめて購入をする。
- 機能と価格を考慮しつつ、可能な限りエネルギー効率の良い機器を購入する。
- 法律で認められていないものや、ワシントン条約およびIUCNレッドリストに示される動植物を脅かす製品の購入はしない。

#### 3)デスティネーション（訪問地）に関するサステナビリティ方針

我々は、新規デスティネーションの選定や商品開発プロセスにおいて、デスティネーションの持続可能性の側面を考慮します。私たちは、訪問する地域社会に社会的・環境的利益を提供する努力をします。

- 新規デスティネーションを選定する際には、サステナビリティを考慮し、場合によっては主流ではない、まだ未開発な代替デスティネーションを提案する。
- 生物多様性、廃棄物、衛生、人権、医療、水、エネルギー、食料の確保などの面で、観光が地域に構造的な悪影響を及ぼす目的地は選択しない。（ただし、企業の関与によって明らかにバランスのとれた効果が得られる場合を除く）
- より持続可能な交通手段で到達可能な新規デスティネーションの選定を検討する。
- 保護地域、遺産に関する規制を遵守する。また、地方、地域、国の当局によるデスティネーション・マネジメント戦略に従う。
- 宿泊施設と地元の生産者との関係を改善する取り組みを支援する。
- 持続可能性、デスティネーションの計画・管理、天然資源の利用、社会文化的な問題に関して、（可能であれば他の旅行会社やステークホルダーとともに）地元政府に影響を与え、支援する。
- 保護区や生物多様性の高い地域を含む生物多様性の保全を、資金提供、政治的支援、商品提供への組み込みなどを通じて支援する。
- ワシントン条約や国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに記載されている絶滅危惧種の動植物や、歴史的・考古学的遺物を含む土産品を販売しない。（法律で認められている場合を除く）

#### 4)宿泊施設に関するサステナビリティ方針について

この「宿泊施設に関するサステナビリティ方針」は、事業パートナーの皆様に宿泊施設における「サステナビリティ」をご理解いただき、共に推進するために期待する基本事項を明示しています。GSTC（グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会）策定の宿泊施設用国際基準および推奨評価指標※1を元に主要なサステナビリティ推進事項をまとめたものです。

※1：GSTC（グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会）国際基準および推奨評価指標  
宿泊施設様向け：

[https://www.gstccouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-IHOv3Dec2016\\_Japanese.pdf](https://www.gstccouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-IHOv3Dec2016_Japanese.pdf)

#### (1)法令順守と人権保護について

- ① 国の法令および地域の条例や慣行の遵守を含む、公正な商慣行を実行する。

- ② 事業を展開する地域における土壌、大気、食品、水、エネルギー、健康管理又は公共空間へのアクセス等の基本公共サービス提供に、ネガティブな影響がないように活動をする。
- ③ 貴施設の運営に関わる従業員の皆様（正社員、非正規社員、派遣社員、業務委託を受けて働く従業員を含む：以下従業員とする）の公正な労働条件を策定し、平等な権利を与えることにより、人権及び経済的・社会的公正を尊重するものとする。
- ④ 児童の権利を尊重し、守るものとする。これは、日本においては以下を意味する。
  - ・ 16歳未満の児童労働の禁止。16歳を下回る児童を雇用しない。
  - ・ 学生インターンシップに対する運用ルールの明示と遵守。

## (2)地域社会への貢献について

- ① フェアトレード及びサステナビリティの原則に基づいて生産された、地元地域（例：同都道府県産）の食材・食品・工芸品を購入し、使用するものとする。（地産地消を推進する）
- ② 現地のお祭りやイベントへの資金援助等の検討、実施。
- ③ 現地の自然・文化・歴史遺産への寄付等の検討、実施。

## (3)地域社会における文化や歴史保全について

- ① 施設内において地域の芸術、建築又は有形無形の文化遺産の要素を尊重し、その修復や保全、そして伝承を担う人々を支援する。例として以下のような取り組みの検討、実施。
  - ・ 施設の外装、内装に、地域の芸術、様式や文化遺産の要素を取り入れている。
  - ・ 施設の調度品や備品に、地域の芸術、様式や文化遺産の要素を取り入れている。
- ② 地域の歴史や文化に基づいて、地元や持続可能な方法で生産されたお土産品を提供・販売する。
- ③ その他、以下のように地域独自の文化、伝統を宿泊客にお伝えする取り組みの検討、実施。
  - ・ 現地の習慣や伝統に関する情報を宿泊客に提供する。

- ・ 地元の伝統的な料理や飲み物をメニューに載せると共に、その歴史や持続可能な意義を説明する。
- ・ 地元の芸術、工芸品、音楽、建築物に関する情報を宿泊客に提供する。
- ④ 改修工事や建設工事が、伝統的な生活様式やコミュニティ（漁業や農業へのアクセスなど）に悪影響を与えないようにする。

## (4)環境及び生物多様性の保護・保全について

- ① 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を遵守したプラスチックの利用削減。
  - ・ ペットボトルやプラスチック製品の利用削減の検討、実施。（ストロー、アメニティ等）
  - ・ お客様自身が水筒やボトルに自ら水を補充できる場所の設置の検討、実施。
- ② ゴミ処理・廃棄物の管理については、3R活動(Reduce, Reuse, Recycle)を推進し以下を取り組む。
  - ・ あらゆる種類の廃棄物を可能な限り削減し、ごみ量の把握と前年廃棄量を踏まえた削減。
  - ・ 食品ロス削減に向けた取り組み。
  - ・ 有機廃棄物の堆肥化の検討、実施。
  - ・ 地域のルールに即した資源、ゴミの分別の徹底。
  - ・ プラスチックのリサイクルへの取り組み。
  - ・ 廃棄物管理、化学物質やその他の危険物の取り扱い、処分、排出、排水処理の手順や基準の順守。
  - ・ 発生した廃水や固形廃棄物を監視・管理し、排出・処分前に必要に応じて処理する。
- ③ 紙の利用削減。
  - ・ デジタルパンフレットの活用、紙パンフレットはFSC認証紙など環境にやさしい紙を利用する。
  - ・ 販売促進資料のペーパーレス対策をとっている。（PDFをメールで送付等）

- ④ エネルギー使用量の削減と効率化の検討、実施。
- ・エネルギー効率の良い設備の導入などエネルギー効率への取り組み。（LEDライトの利用等）
  - ・自動消灯等のシステム整備。
  - ・電気使用量の把握と前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
  - ・ガス使用量の把握と前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
- ⑤ 水の使用量削減と効率化。
- ・「洋式」トイレ及びシャワーへの節水システム装備の検討、実施。
  - ・使用水量の計測、前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
- ⑥ 健康や環境に害を与えたり、リスクをもたらすことが知られている化学物質の使用を最小限に抑える。
- ⑦ 動物関連のアクティビティが国際的に認知された適切な動物福祉条件の中で行われるようにする。
- ⑧ 周辺地域の森林および水資源地域の生物多様性の保護・保全を支援する。
- ⑨ ワシントン条約および国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに記載されている絶滅の危機に瀕している動植物種を含む土産物や食品、食事メニューを販売しない検討、実施。

#### (5)コンプライアンス違反、サステナビリティ関連条項における重大な違背発生時の措置について

万が一、御社の事業活動においてコンプライアンス違反や、本方針で記載されたサステナビリティ推進に関する条項において重大な違背が発生し、適切な処置が施されない場合は、お取引内容の見直し等のご相談をさせていただく可能性がございます。

\*サステナビリティ推進の取り組み実施をされている事業者様の弊社顧客への推奨について

弊社は今後、弊社のお客様に対しサステナブルな取り組みをしている事業パートナー様を推奨、提案して参ります。例）サステナブルな取り組みを実施している施設様（特にサステナビリティ関連の認証取得をされている等）を、弊社のお客様（海外エージェント等）に推奨いたします。

#### 5)輸送サービスに関するサステナビリティ方針

我々は、価格、品質、入手可能性を考慮に入れ、以下のように、可能な限りよりサステナブルなサービスを優先に手配、お客様にお勧めいたします。

- ・輸送手段について、距離、価格、経路、快適性を考慮し、目的地（空港含む）まで/からの移動、目的地内での移動に利用可能な環境に優しい選択肢をできる限りお客様にお勧めする。（例）CO2排出量削減を意識した以下のような交通手段のオプション提示の検討・推奨公共交通機関、歩き、自転車、ハイブリッドカーやEV、FC、PHV等の手配の検討短距離間の移動は、飛行機より新幹線等を優先に検討
- ・グループの人数に合わせて適切なサイズの車両を手配する。
- ・法令を遵守し、安全性、品質の確保された事業者を利用する（例）貸切バス事業者安全性評価認定事業者を積極的に利用する。
- ・効率的なルートで運行する。
- ・当社は必要に応じて、移動におけるCO2排出量を算出・提示し、お客様にカーボンオフセットのオプションを提案する。

#### 6)アクティビティに関するサステナビリティ方針について

この「アクティビティに関するサステナビリティ方針」は、事業パートナーの皆様へアクティビティにおける「サステナビリティ」をご理解いただき、共に推進するために期待する基本事項を明示しています。GSTC（グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会）策定の国際基準および推奨評価指標<sup>※1</sup>を元に主要なサステナビリティ推進事項をまとめたものです。

※1：GSTC（グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会）国際基準および推奨評価指標

観光産業、ツアーオペレーター用

[https://www.gstcouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-I-TOv3Dec2016\\_Japanese.pdf](https://www.gstcouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-I-TOv3Dec2016_Japanese.pdf)

地域用

<https://www.gstcouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-Destination-Criteria-v2.0-Japanese.pdf>

### (1) 法令順守と人権保護について

- ① 国の法令および地域の条例や慣行の遵守を含む、公正な商慣行を実行する。
- ② 事業を展開する地域における土壌、大気、食品、水、エネルギー、健康管理又は公共空間へのアクセス等の基本公共サービス提供に、ネガティブな影響がないように活動をする。
- ③ 貴施設の運営に関わる従業員の皆様（正社員、非正規社員、派遣社員、業務委託を受けて働く従業員を含む：以下従業員とする）の公正な労働条件を策定し、平等な権利を与えることにより、人権及び経済的・社会的公正を尊重するものとする。
- ④ 児童の権利を尊重し、守るものとする。これは、日本においては以下を意味する。
  - ・ 16歳未満の児童労働の禁止。16歳を下回る児童を雇用しない。
  - ・ 学生インターンシップに対する運用ルールの明示と遵守。(2)地域社会への貢献について

### (2) 地域社会への貢献について

- ① フェアトレード及びサステナビリティの原則に基づいて生産された、地元地域（例：同都道府県産）の食材・食品・工芸品を購入し、使用するものとする。（地産地消を推進する）
- ② 現地のお祭りやイベントへの資金援助等の検討、実施。
- ③ 現地の自然・文化・歴史遺産への寄付等の検討、実施。

### (3) 地域社会における文化や歴史保全について

- ① 施設内において地域の芸術、建築又は有形無形の文化遺産の要素を尊重し、その修復や保全、そして伝承を担う人々を支援する。例として以下のような取り組みの検討、実施。
  - ・ 施設の外装、内装に、地域の芸術、様式や文化遺産の要素を取り入れている。
  - ・ 施設の調度品や備品に、地域の芸術、様式や文化遺産の要素を取り入れている。

- ② 地域の歴史や文化に基づいて、地元や持続可能な方法で生産されたお土産品を提供・販売する。
- ③ その他、以下のように地域独自の文化、伝統をお客様にお伝えする取り組みの検討、実施。
  - ・ 現地の習慣や伝統に関する情報をお客様に提供する。
  - ・ 地元の伝統的な料理や飲み物をメニューに載せると共に、その歴史や持続可能な意義を説明する。
  - ・ 地元の芸術、工芸品、音楽、建築物に関する情報をお客様に提供する。
- ④ 改修工事や建設工事が、伝統的な生活様式やコミュニティ（漁業や農業へのアクセスなど）に悪影響を与えないようにする。
- ⑤ 先住民や伝統的なコミュニティへの訪問、文化の見学等を含むアクティビティは、詳細なガイドラインを策定し、参加者へ周知する。

### (4) 環境及び生物多様性の保護・保全について

- ① 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を遵守したプラスチックの利用削減
  - ・ ペットボトルやプラスチック製品の利用削減の検討、実施。（ストロー、アメニティ等）
  - ・ お客様自身が水筒やボトルに自ら水を補充できる場所の設置の検討、実施。
- ② ゴミ処理・廃棄物の管理について、3R活動(Reduce, Reuse, Recycle)を推進
  - ・ あらゆる種類の廃棄物を可能な限り削減し、ごみ量の把握と前年廃棄量を踏まえた削減。
  - ・ 食品ロス削減に向けた取り組み。
  - ・ 有機廃棄物の堆肥化の検討、実施。
  - ・ 地域のルールに即した資源、ゴミの分別の徹底。
  - ・ プラスチックのリサイクルへの取り組み。
  - ・ 廃棄物管理、化学物質やその他の危険物の取り扱い、処分、排出、排水処理の手順や基準の順守。

- ・発生した廃水や固形廃棄物を監視・管理し、排出・処分前に必要に応じて処理する。
- ③ 紙の利用削減
  - ・デジタルパンフレットの活用、紙パンフレットはFSC認証紙など環境にやさしい紙を利用する。
  - ・販売促進資料のペーパーレス対策をとっている。（PDFをメールで送付等）
- ④ エネルギー使用量の削減と効率化の検討、実施
  - ・エネルギー効率の良い設備の導入などエネルギー効率への取り組み。（LEDライトの利用等）
  - ・自動消灯等のシステム整備。
  - ・電気使用量の把握と前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
  - ・ガス使用量の把握と前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
- ⑤ 水の使用量削減と効率化
  - ・「洋式」トイレ及びシャワーへの節水システム装備の検討、実施。
  - ・使用水量の計測、前年使用量を踏まえた改善目標の設定と削減に向けた取組の検討、実施。
- ⑥ 健康や環境に害を与えたり、リスクをもたらすことが知られている化学物質の使用を最小限に抑える
- ⑦ 動物福祉
  - ・動物を扱うアクティビティは国際的に認知された適切な動物福祉条件や国・自治体の規則に従い行われる。
  - ・野生生物との交流を含む体験、アクティビティは関連する行動規範に従い、自然の生態系に悪影響を及ぼさない。
- ⑧ 動植物に重点を置くアクティビティ（ダイビング、シュノーケリング、クジラ・イルカウォッチング等のマリンアクティビティや野生生物の観察と保護地域の訪問等）は、詳細なガイドラインを策定し訪問者へ周知する。
- ⑨ 自然の生態系へ影響を与えるいかなる行為も最小限に抑えるように留意する。

- ⑩ 事業活動を行う周辺地域の森林および水資源地域の生物多様性の保護保全について、訪問者へ同行するスタッフが十分な説明をすると共に、積極的に支援する。（なるべく地元の精通した専門スタッフに依頼する）
- ⑪ ワシントン条約および国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに記載されている絶滅の危機に瀕している動植物種を含む土産物や食品、食事メニューを販売しない検討、実施。

※（３）（４）共通の前提として

地域コミュニティの住民、動物、植物、天然資源（水・エネルギーなど）に危害を与えるようなサービスや社会的・文化的に受け入れられないようなサービスは提供しない。(5)コンプライアンス違反、サステナビリティ関連条項における重大な違反発生時の措置について万が一、御社の事業活動においてコンプライアンス違反や、本方針で記載されたサステナビリティ推進に関する条項において重大な違反が発生し、適切な処置が施されない場合は、お取引内容の見直し等のご相談をさせていただく可能性がございます。

**\*サステナビリティ推進の取り組み実施をされている事業者様の弊社顧客への推奨について**

弊社は今後、弊社のお客様（海外エージェント等）に対し上記のような基準に基づいて運営されるアクティビティ、特に地元の伝統文化、動物福祉、環境を尊重するアクティビティ、コンテンツを推奨、提案して参ります。また、GSTC国際基準に準拠したと承認されたサステナビリティ関連の認証取得をされている事業者様を推奨いたします。

## 7)同行案内に関するサステナビリティ方針

我々は、同行案内サービスに関して、以下のように取り組みます。

- ・お客様に同行・案内するスタッフ（通訳案内士・幹旋員・添乗員等）に弊社のサステナビリティ方針を理解し、現場での対応をして頂けるように、情報提供・研修の機会を設ける。
- ・必要な資格を取得した通訳案内士と契約する。

- スタッフはお客様に同行中、以下のようなサステナビリティに関する情報提供や案内をする。
  - 地球環境保全を配慮し、適正な廃棄物処理を行い、お客様に対してもそのように案内する。
  - 訪問地における自然環境、地域文化（文化的習慣、行動様式、服装規定）、文化遺産に関する情報を提供し、理解促進につなげる。
  - 特に文化的、生態学的に注意が必要な場所では、スタッフからお客様に対して十分な説明をし、訪問地域やアクティビティ提供事業者が定めた詳細なガイドラインを遵守するよう案内する。また、可能な限り現地の専門的なスタッフを手配し詳細な案内を実施する。
  - 地産地消推進の観点から、地元のレストラン及び地域特産品のお店を利用することも選択肢としておすすめする。
  - 訪問地での持続可能な交通機関（電車、地下鉄、バス等の公共交通機関、あればエコ車両(水素バス、電気バス、ハイブリッドバス等)）の選択肢や徒歩でのアクセスについて情報を提供する。
  - 訪問地の慈善団体や自然資源、有形無形の文化資源保護・保全・育成のための寄付の機会があれば案内する。
  - 訪問地での安全衛生に関するリスクや注意事項を案内する。
  - 児童及び若者の性的搾取の回避について、注意情報や必要に応じて研修の機会を提供する。
  - 訪問地における絶滅危惧種の動植物を原料として使われている、歴史的又は宗教的人工物及び物品の売買及び輸出入に関して適用される法令について正しく案内する。  
例：ワシントン条約CITES（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）
  - 緊急時は、あらかじめ決められた連絡体制、対応方法に則り対応する。

